

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月27日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|-----------------------------------|-------|------------|
| 事業所番号 | 2370401073 | | |
| 法人名 | 株式会社サカイ | | |
| 事業所名 | グループホーム「あじさい」 | | |
| 所在地 | 名古屋市西区中沼町108 (電話) 052-505-8105 | | |
| 評価機関名 | 福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ | | |
| 所在地 | 名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A | | |
| 訪問調査日 | 平成19年6月26日 | 評価確定日 | 平成19年8月26日 |

【情報提供票より】(平成19年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|---------------|-----------------------|------|
| 開設年月日 | 昭和・平成 16年8月1日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 20 人 | 常勤 10人, 非常勤 10人, 常勤換算 | 6.7人 |

(2) 建物概要

| | | |
|------|-------|--------|
| 建物構造 | 鉄骨 | 造り |
| | 2階建ての | 1~2階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|-----------------|------------------|------------|----------|---|
| 家賃(平均月額) | 35,000 円 | その他の経費(月額) | 32,000 円 | |
| 敷金 | 有(100,000 円) | 無 | | |
| 保証金の有無(入居一時金含む) | 有() 円) | 有りの場合償却の有無 | 有 / 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり 1,000 円 | | | |

(4) 利用者の概要(平成19年6月1日現在)

| | | | | | | |
|---------|---------|--------|-----|------|------|------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 | 3 名 | 女性 | 15 名 | |
| 要介護1 | 5名 | 要介護2 | 8名 | | | |
| 要介護3 | 4名 | 要介護4 | 0名 | | | |
| 要介護5 | 0名 | 要支援2 | 1名 | | | |
| 年齢 | 平均 | 75.7 歳 | 最低 | 68 歳 | 最高 | 93 歳 |
| 協力医療機関名 | 康友クリニック | | | | | |

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅地の中にあり、近くには公園がある。駐車場では、田楽大会やバーベキュー大会が開かれる。また、屋台のラーメンが月1回来てくれて入居者は楽しんでいる。玄関は明るく、廊下、リビング、浴室の前には、縁台やソファが置かれ、一休みできるようになっている。各ユニット毎に目標があり、食事の内容もユニット毎に違っており、入居者に合わせた職員の対応が見られる。食事、入浴、排泄も入居者に応じて支援されている。また、鍵をかけないケアの支援を行っており、家族や入居者との話し合いの中で、安全面を考えながら、自由な暮らしを支える努力をしている。

【重点項目への取組状況】

| | |
|------|---|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 評価を受けて、運営推進会議の中で伝え、改善に取り組んでいる。また、「あじさいだより」にも載せ、家族の方に知らせている。月1回のリーダー会議の中でも話し合っている。 |
| 重点項目 | 今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) |
| | 外部の人の目を通してありのままに見てもらおう。職員は、外部評価をすることで自己評価の見直しをして改善に取り組んでいる。 |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) |
| | 3か月に1回運営推進会議を開催しており、議事録をとり、今後の取組みに活用している。市の介護保険課の自己評価アンケートの結果を説明したり、参加者の質問に答えている。また、高齢者の交通事故が多いとのことで、交通誘導の講演も受けている。 |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) |
| | 年2回家族を招待しての交流会がある。その機会に家族の意見を聞いたり、家族の訪問時にも相談、苦情を受けている。職員全員で考え運営に反映させている。健康状態については、月2回の往診時に変化があった場合、家族に電話で報告している。また、家族の訪問時に心身の状況を伝えている。緊急時などは即電話対応している。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| 重点項目 | 町内会に加入し、防災訓練に参加したり、地元の小学校で行われる盆踊り大会にはホームで揃えた浴衣を入居者同士で着せ合い参加した。12月の餅つき大会への参加や老人会にも入り、日帰り旅行など出かけている。今後、町のコミュニティーセンターで開かれる「いきいきサロン」「絵手紙」に参加していきたいと考えている。公園に花壇を作り毎日の水やりを通じて地域の人との交流もある。 |

2. 評価結果（詳細）

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|--|---|---------------------|----------------------------------|
| . 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 住みなれた地域において安心して老いることができ、そして暮らせる環境を提供し、要介護者等のノーマライゼーションと自立支援を基本的理念としている。また、各ユニット毎に入居者に応じた目標を作成している。 | | |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | ホームの理念をもとに、1階、2階それぞれの入居者に応じて、何が必要なかを話し合い目標を掲げている。1階は職員同士の話し合いを持ち、2階は朝礼で読み上げて共有し、確かめ合い、それぞれ日々のサービスに反映させている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 町内会に加入し、防災訓練に参加したり、地域の小学校で行われる盆踊り大会にはホームで揃えた浴衣を入居者同士で着せ合い参加した。12月の餅つき大会への参加や老人会にも入り、日帰り旅行など出かけている。今後、町のコミュニティーセンターで開かれる「いきいきサロン」「絵手紙」に参加していきたいと考えている。公園に花壇を作り毎日の水やりを通じて地域の人との交流もある。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 運営推進会議の中で、評価のことを伝え、改善に取り組んでいる。月1回のリーダー会議の中でも話し合っている。また「あじさいだより」に載せ、家族の方に知らせている。職員は、外部評価をすることで自己評価の見直しをして改善に取り組んでいる。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|--|---------------------|----------------------------------|
| 5 | 8 | <p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> | <p>メンバーは自治会長、町内会長、老人会長、民生委員、ホームの管理者、代表者で構成されている。今後、家族の方の参加を呼びかけたいと考えている。3カ月に1回会議を開催しており、議事録をとり、今後の取り組みに活用している。市の介護保険課の自己評価アンケートの結果を説明したり、参加者の質問に答えている。また、高齢者のための交通誘導の講演も受けている。</p> | | |
| 6 | 9 | <p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> | <p>区役所の介護保険課や保護係には、ホームのことや入居者に関する事で連絡を取っている。管理者は8月23日～11月2日まで開かれる名古屋市認知症高齢者介護指導者研修に参加することになっている。</p> | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | <p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> | <p>健康状態については、月2回の往診時に変化があった場合、家族に電話で報告している。家族の訪問時に、心身の状況を伝えている。緊急時は即電話連絡をしている。また、金銭出納帳もあり、家族の訪問時に確認してもらっている。入居者の写真と月1回の「あじさいだより」を家族に送っている。</p> | | |
| 8 | 15 | <p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | <p>年2回家族を招待しての交流会がある。5月には田楽大会を行った。10月には、味覚祭としてバーベキュー大会を予定している。その際に、家族の意見を聞いたり、訪問時にも各入居者の事についての意見を聞いたり、相談や苦情を受けている。職員全員で考え、運営に反映させている。</p> | | |
| 9 | 18 | <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> | <p>入居者に異動を伝えてもすぐ忘れてしまったり、不安を感じる人もいるので、異動の時は入居者の認知度や理解度に応じて説明している。法人内のホームに異動したり、同じ介護職の異動なので、現場の混乱はあまりなく、入居者にも対応している。管理者や役職者、担当スタッフの異動時には、家族へ連絡をとっている。</p> | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|--|--|---------------------|----------------------------------|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> | <p>職員の人数体制もあり、日中の研修は全員参加は無理であるが、勤務の調整をして取り組んでいる。名古屋市実践者研究やグループホームの研修会には参加している。また、ホーム内の研修として1階、2階の職員を交代する現場研修が月3日間ある。</p> | | |
| 11 | 20 | <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p> | <p>市内にある法人内のホームと、月1回の交流を持っている。また、西区の5つのグループホームが集まり、月1回の勉強会を開いている。名古屋市グループホーム協議会が主催する年1回の研修は入居者も一緒に参加でき、昨年も参加し今年も参加する予定である。同会の副会長をホームの代表者が務めている。また、愛知県グループホーム連絡協議会の研修委員会を管理者が担当して研修企画に携わっている。</p> | | |
| .安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | <p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> | <p>相談から入居までの1週間の間に、見学や1泊2日の体験入居も行っている。入居者の都合で即入所もあるが、入居者が混乱しないよう対応している。</p> | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | <p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p> | <p>1階では、梅干漬けやお寿司、巻き寿司などを作ったり、洋裁の得意な人が各居室の暖簾を手作りした。2階は、らっきょう漬けや料理の方法、包丁の研ぎ方など生活の知恵を教えてくれる。また、お茶の道具を用意して、毎日抹茶タイムがあり職員も参加している。洗濯物の取り入れや食事の時に「ありがとう」と声をかけてもらったり「肩を揉んであげようか」など励まされることもある。</p> | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|---|---------------------|--|
| . その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> | <p>「車に乗りたい」「美味しいものが食べたい」等の入居者の呟きを聞き、外出したりしている。1階は週1回、2階は週2回、リクエストメニューの日があり入居者の希望にえている。また、困難な人には、目のしぐさや表情で判断し、居室で話を聞いている。電話で家族の人の声を聞いたり、入居者が会いたい人には手紙を書いたり、集団生活の中で本人本位の生活を楽しくしてもらっている。</p> | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> | <p>入居者の声を聞いて、介護計画を立てている。本人・家族の意向が反映されているところもあるが、現状が家族に伝わらないところもある。個人プランは職員から声をかけたり、本人の希望を聞いて取り入れたり、楽しみを続ける努力をしているが、本人の力を考えれば難しいところもある。なるべく近いものになるよう話し合っている。</p> | | |
| 16 | 37 | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> | <p>ケアプランはあるが、見直しの記録がない。1、2階とも、個別の申し送りノートに状況や気づきを書き職員で話し合い、共有はしているがケアプランに反映されない。1階は月1回のカンファレンスが開かれてるが、介護計画の見直しまでには至っていない。2階は独自のカンファレンス表を用いて記入している。</p> | | <p>話し合いや申し送りノートもあり、独自のカンファレンス表を用いて記入はされているので、それを活かしてケアプランの見直しを検討されることを期待したい。</p> |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | <p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p> | <p>協力医の往診が月に2回行われており、眼科や歯科の往診もあり、病気の早期発見につながっている。入院した場合には、早期退院の支援とし、医療ソーシャルワーカーと連絡を取り合っている。また、透析の方を職員が手作り弁当持参で、週3回送迎している。主治医の同意を得てホームマッサージを受けている人もいる。</p> | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|---|---------------------|--|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | <p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p> | <p>入居前から通っていたかかりつけ医や整形外科のリハビリ、透析の必要な方には、通院介助をしている。連絡ノートをつくり、病院との連携を図っている。家族には、月1回の体重測定、バイタルサイン、排便、食事量などを伝えている。緊急時には、協力医との連携もとっている。</p> | | |
| 19 | 47 | <p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> | <p>ターミナルケアを視野に入れており、2階では、以前終末期の入居者について家族、職員、病院と、よく話し合いがもたれた。ターミナルケアについての外部研修も受け、ホーム独自の研修も行った。1階では現在、対象者がいないため、話し合いの機会は持っていないが状況に応じて話し合っていく予定である。家族の希望や事情もあり、主治医の協力も必要なので方針の統一までは至っていない。</p> | | <p>早い段階から、管理者、家族、職員、そして協力医との話し合いを持ちターミナルケアの取り組みを期待したい。</p> |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> | <p>入職時に個人情報についての誓約書を取っている。事務所以外には個人名が入ったものを置かないようにしている。来訪者の名簿は一覧表になっているが、1枚ずつに今後変更する。ホーム便りには写真は載せておらず、運営推進会議に写真を使う時は、事前に家族に許可をもらっている。排便、トイレ誘導の時は、皆の前では声かけをしていない。</p> | | |
| 21 | 52 | <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> | <p>お酒、タバコは主治医の指導がない限り、職員の管理のもと本人の希望を聞いている。入居者の6人が喫煙し、3人が自分でタバコを管理している。ライターは職員が回収する方向で話が進んでいる。玄関の横に喫煙コーナーを設けている。仏壇のある入居者は、職員が仏花を用意し一緒にお供えをしている。入居者がお茶をたててくれる抹茶タイムを職員と過ごしている。</p> | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|--|--|---------------------|----------------------------------|
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 1階は週1回、2階は週2回、リクエストメニューの日があり、入居者は楽しみにしている。できることを手伝ってもらい、おやつのわらびもち、白玉を職員と一緒に作っている。屋台のラーメン屋が月に1回来てくれるので入居者は楽しんでいる。 | | |
| 23 | 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 基本的には毎日入浴ができるようになっている。15時～20時が入浴時間で、入浴嫌いの人には清拭で対応したり、着替えをしてもらっている。声かけに工夫を凝らし、その人の入浴されない原因を考えて話しをしている。時にはぬいぐるみを持って入浴されることもある。浴室には造花を飾って、楽しくなるように工夫している。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 金魚の餌やりを日課にしている入居者がいて、忘れないよう 印を記入する確認表を作っている。日めくりが用意され、自分の仕事としてやっている方もいる。自然な役割分担もできており、洗濯物、食事に関わる事等、一緒に行われている。月1回、希望者は大曽根にある南座の演劇に行っている。 | | |
| 25 | 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 近くの公園に入居者が作った花壇があり、1階、2階交代で水やりに出かけている。買い物も順番に職員と一緒にしている。外食なども回転寿司、お好み焼き、喫茶店などへ希望者と出かけるようになっている。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 帰宅願望の強い入居者もいるので、夕方時には気をつけている。出ていかれた場合、15分探していなかったら警察へ連絡し、家族にも連絡している。管理者の名刺を入居者の財布の中に入れており、近所の人やスーパーの店員、近くのたばこ店にいつも協力をお願いしている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------|------|---|---|---------------------|--|
| 27 | 71 | <p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p> | <p>年2回、火災訓練を行っている。消防署の方と一緒に、入居者、職員と消火器訓練をした。運営推進会議を通して地域に呼びかけをしている。災害に備えた備品については、ホームでは水を用意している。</p> | | <p>色々な場面を想定した訓練やホーム内にも災害に備えての食料や備品を確保されるよう期待したい。</p> |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | <p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p> | <p>献立表と栄養バランスについては、保健所の栄養士にお願いし、指導を受けた。入居者の水分量は1000ccを目標に取り組んでいる。また、透析の人の水分量は医師の指示通りに行っている。</p> | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | <p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>玄関は明るく日差しが入り、季節の飾りがある。縁台、ソファが廊下の所々に置かれ、ちょっと腰をかけたたり、入居者同士がくつろげるように配慮されている。リビングには、大きなカレンダーがあり、立体的に作られた共同作品の「アジサイ」が季節を感じさせてくれる。柔らかい色の電球色を使用しており、目にも優しい。</p> | | |
| 30 | 83 | <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>テレビ、仏壇、たんす、化粧台など、馴染みの身の回り品が多く持ち込まれている。入居する前に、職員が居室確認も兼ねて引越しの手伝いに行き、本人に聞きながら、馴染みのものを持ってきてもらえるよう立ち合っている。</p> | | |

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。